

宿縁

十一月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗
本願寺派
中原寺

TEL 〇四七—三七二—〇二九二
FAX 〇四七—三七二—〇二六二

不便の世からの贈り物



近頃気にかかるのは、家でも道でも町でも小さい子や若い人や年寄りの一体感が感じられないことです。世代間の分断化が急速に進んでいるのが現代社会の特徴です。
ところで宗教行事の伝承は食文化と共にありました。
特に浄土真宗の報恩講の仏事は最もその色濃さが伝えられてきたといってもよいでしょう。宗祖親鸞聖人の御命日にあたり、ご遺徳を慕い報恩感謝の営みとして伝承され勤められるこの御仏事は、そこに参らんもの

は「木石に等し」とまで厳しく誠められたものです。木石とは木や石のように感情を有しない無機物と同じだということですが、もつとも数値と記号ばかりでものを判断するように組み込まれた現代の私たちの生き方はまさに心を失った木や石のようなものです。

季節的に秋から冬にかけて各地で勤められる報恩講の仏事は、寄り合う老若男女がその年の恵みに感謝する時期でもあり、食事と共にしながらみ教えや、家庭のことや、村や町のことを楽しく談合する場でありました。食事といっても「お齋とき」といって、もつとも仏教徒として誠める「不殺生(ふせつしよう)」を保つ意味から精進料理(菜食)の食事です。

そしてお齋の材料は、親鸞聖人がお念仏の道を伝えられた旅姿のご苦労を偲んで次のような食材を通して味わったのです。
椎茸(筍)。ごぼう(杖)。油揚げ(袈裟)。里芋(枕)。人参(手足のあかぎれの血)。かんぴょう(お経)等。
因みに里芋の枕の意味は、一夜の宿は軒下を借り、石を枕に休んだというところからです。また、かんぴょうのお経の意味は、紙が発明されない時代にお経は木の皮に書き記した原点によるものです。
無理に親鸞聖人の御一生を食材にこじつけたわけではないかと思いでしうか。

もしそのように思うとしたら、科学的知性に毒されたものの考え方といわざるを得ません。何事もモノの表面だけしか見えない人生は味気のないものです。

食材が単に揃えたモノではなく、一つ一つにあらゆる恵みを感じ取っていった感謝の心があるのです。金を出せば何でも得られるという感覚、テレビではこれでもかこれでもかと言った欲望を成長させていく番組ばかりには、へきえきとします。大量生産大量消費があたかも平和と幸せの象徴と錯覚させる現代はまさに罪を重ねる時代といわざるを得ません。

「世間法は欲が支配し」
「世間法は欲を支配する」
という言葉があります。

「世間法」とは、人間のもつともつという終わりのない欲望に支配されている生き方をいいます。私たちがその終わりのない欲望から自由になるためには、自分はもう充分に与えられ満たされているということに自ら気付く以外にはないのです。こうした自覚を、欲望に支配されずに日常生活を生き抜いていく道を「出世間法」＝「仏法」といいます。

世間法に縛られ、そこから脱出する方法も知らずに迷いを繰り返す私たちを、救わずにはおかないという真実(阿弥陀如来の本願)に出遇った親鸞聖人は、その喜びを伝えるために血のじむご苦労の御一生を歩んでくださいました。

そのお傍に在った門弟の唯円さまは著書「歎異抄」の後序でこう述べられています。「親鸞聖人がつねづね仰せになつていたことですが、「阿弥陀仏が五劫もの長い間思いをめぐらしてたてられた本願をよくよく考

えてみると、それはただ、この親鸞一人をお救いくださるためであった。思えば、このわたしはそれほどに思い罪を背負う身であったのに、救おうと思いつてくださった阿弥陀仏の本願の、何と勿体ないことであるうか」と、しみじみとお話になっておられます。そのことを今あらためて考えてみますと、善導大師(七高僧の第五祖)の、「自分は現に、深く重い罪悪をかかえて迷いの世界にさまよい続けている凡夫であり、果てしない過去の世から今に至るまで、いつもこの迷いの世界に沈み、つねに生まれ変わり死に変わりし続けてきたのであって、そこから抜け出る縁などない身であると知れ」という尊いお言葉と、少しも違つてはおりません。そうしてみると、勿体ないことに、親鸞聖人がご自身のこととしてお話になったのは、わたしどもが、自分の罪悪がどれほど深く重いものかも知らず、如来のご恩がどれほど高く尊いものかも知らずに、迷いの世界に沈んでいるのを感じさせるためであったのです。』と。

季節が寒くなれば「日向」が恋しくなります。ガス暖房も電気暖房も身体をあたたかくしてくれませんが、日向ぼっこは一銭もかからないのに、ほのぼのとした気持ちになります。念仏も一銭もかからないのに、喜びと感謝に満ちたありがたい気持ちになります。
現代はこの部屋も暖房が行き届いて仕合わせそうですが、それぞれが各部屋にこもって勝手に孤独です。昔は皆で一つの火鉢で暖をとり、日向に出て一緒に身体を温めました。自然な光景を共にしながら心が一つにほつこりとしたあたたかな幸せを感じました。報恩講は心の温もりを説く大切な場です。

【寺灯雑記】

○第三十回を迎えた文化講演会を開く

10/20

豊かな心の時代を願って少しでも仏教に縁を持つてほしいと、平成元年から市川駅そばの山崎製パン企業年金基金会館を会場に始めた中原寺文化講演会が第30回(三十年)を迎えました。

秋晴れの下、およそ180名の聴講者が来場、京都から出講された花園大学教授佐々木閑先生の「現代人のためのブツダの教え」と題したとても分かり易い講演を聞ききました。終了後は個別に質問を受け、講師のお人柄に列ができるほどでした。

当日のアンケートからお寄せいただいた感想文の一部を掲載します。

※大変面白い話が沢山聞いて勉強になりました。12時間通して聞きたかったです。

(30代男性)

※わかりやすく、楽しく、講義を拝聴させていただきました。何歳になっても人は変わることが出来る。何をやるかによって人の幸せが決まる。すてきな話をありがとうございました。

(40代女性)

※とてもわかりやすく、楽しく拝聴させていただきました。自己中心で生活していること、とらわれていることをよく感じ、今日のお話を今後になかし、抛り所にしたと思います。感動的でした。

(40代男性)

※佐々木閑先生のご講演を聴く機会をいただきました。ありがとうございます。初期仏教の合理性について理解できました。老病死に

より自由を奪われる人間の本性と無明による自由拡大を求める人間の本性により、人間は苦の中に生きること、よく理解できました。

(50代男性)

※仏教に関する書籍を最近集中して購読しています。本日の講演は、仏教について諸々考える上で、大変貴重な機会となり、心より感謝いたします。

(60代男性)

※先生の著作は何冊か読ませていただきました。大乘仏教の成り立ちに興味がありました。今日のお話で「無明」が一番印象に残りました。自分中心の考え方をどうやっとなくしていくか難しいと思いました。

(70代女性)

※仏教の講演会は初めてでしたので、とても面白かったです。人間という動物は実に面白いものだと思います。

平等が老病死をベースに考えることが確かだなど納得しました。「生きる」ことを大事にしていこう。それが今日の成果です。佐々木先生のお話はわかりやすかったです。ありがとうございました。

(70代女性)

※人間。自分自身の心を見つめる考える機会をいただいたと思う。もともとと長時間先生の話を伺いたかったです。

(70代女性)

※八十になりました記念に「残年」をいかに生きるかについて、只々考えています。

この考えの土台ともなるものを求めています。胸にひびくお言葉を賜りました。

(80代女性)

○ご苦労さま、お仏具磨きと清掃奉仕

11/3

年2回恒例になっている本堂内陣のお荘厳仏具磨きと境内等の清掃におよそ30名の方々がご奉仕くださいました。

暖かな秋の日和に恵まれましたが、午前10時から約2時間、女性陣は主にお仏具磨きと室内の清掃、男性陣は主に境内、参道石段の洗浄にと汗を流しました。

○「介護講談」を映像で学ぶ

11/3

午後1時半からの婦人会、壮年会合同法座では、聞法会館のプロジェクトで「田辺鶴瑛の介護講談」試写会を観賞しました。

女流講師・田辺鶴瑛さんが、義父の在宅認知症介護の実体験を基にして創作したもので、介護のつらさを笑いに変えていく、文部科学省選定のライブ収録作品です。

高齢化社会の現代、誰にとっても決して他人事とは思えない「家族の介護」にどのような向き合うべきか、一人ひとりが涙と笑いに誘われながらも大いに考えさせられました。

田辺さんの言葉の中には、肯かされる多くのものがありました。

「相手を変えるんじゃなくて、自分が変わらなないとダメ」

「いつしか私たちのほうがおじいちゃんに癒されていることに気づきました」

「介護するなかで相手にありがとうという心が育てられるんですね」

「介護するほうも介護されるほうもお互いが大好きになったら…お別れのときがくるんだねえ」

【法要・法座・行事の案内】

☆報恩講法要修行

*十一月二十日(火)

- ・映像で見る親鸞聖人御伝鈔 五時
- ・おつとめ「初夜礼讃」 五時半
- ・法話 義本弘導師 (大阪浄行寺)
- ・お斎 あずき粥接待

*十一月二十一日(水)

- ・晨朝勤行(正信偈和讃) 六時半
- ・日中法要「讃仏偈」 十一時
- ・法話 義本弘導師
- ・お斎(精進料理)接待 正午
- ・満座法要(正信偈和讃) 一時
- ・法話 義本弘導師

○子育てサロン(パンダっ子)

*十一月二十二日(月) 十一時〜二時

○和讃に学ぶ(仏智疑惑讃、聖徳皇子奉讃)

*十一月二十四日(土) 二時

○婦人会法座(七高僧「源信僧都」)

*十一月一日(土) 一時

○門信徒会役員会

*十一月一日(土) 三時半

○壮年会法座

*十一月八日(土) 三時

○婦人会、壮年会合同年末懇親会

*十一月八日(土) 六時

・場所 「一幸」(東松戸店)

・参加費：男性7千円、女性六千円

夕方五時半にお寺に送迎バス有り

○和讃に学ぶ(聖徳皇子奉讃)

*十二月二十二日(土) 二時

【十一月の掲示板のことば】

日向ぼっこも 念仏も ただなのほのぼのと感謝の念に満ちる